

原弘久所長は「刺激を受ける発言が多かった。長崎学に携わる人がネットワークをつくることは50年後、100年後に向けた研究の一步になる」と話した。

(嘉村友里恵)



各参加者ら 長崎歴史文化博物館

留学生に惨状伝える

6/5 長崎

県内の外国人留学生に被爆の実相や平和の尊さを伝える「長崎平和大学」が4日、長崎市文教町の長崎大であり、27カ国の留学生ら約360人が、被爆者、松尾幸子さん(82)＝同市本原町＝の被爆体験講話に耳を傾けた。

長崎平和大学 被爆者の松尾さん講話



被爆体験を語る松尾さん 一長崎大

県や市などが2005年から毎年開催。松尾さんは当時11歳で、爆心地から約1・3キロの岩屋山で被爆。父や兄、姉など家族、親類7人を原爆で失った。

講話では、髪が抜け落ち、下痢をするなど放射線の影響とみられる症状におかされながら亡くなった父の様子を語り、「あんな体験は二度としたくない。核は一日も早く廃絶してください」と呼び掛けた。

講話後、活水女子大現代日本文学部の鄭芝穎さん(22)は「核兵器の恐ろしさをしみじみと感じた。戦争が二度と起こらないようにできることをしていきたい」と話した。留学生らは、同市内の平和公園や長崎原爆資料館の見学もした。

(宮本宗幸)

長崎新聞に折り込み、管内の約2万世帯に届ける。自宅電話のそばに貼り付け、不審電話があれば、必ず信頼できる人に相談するよう呼び掛けている。



長崎署が作製した特殊詐欺防止用のチラシ。家族や知人の電話番号を記入できる

同署が進める「まず、確認せよ」運動の一環。長崎新聞の販売センターと連携して取り組む。今後、高齢者が集まる公民館などに配布する。

脳性まひで手足に強い緊張がある小川貴久子さん(53)が、足を動かすこと、書いた書道作品などを展示した個展を、同市本町のまちかど市民ギャラリーで開いている。6日まで。入場無料。

小川さんは子どものころから絵を描くことが好きで、個展の機会や恩師らが広報などを主会場には書画15点を「愛」など葉を力強い作品が並ぶ。会場を自ら費で賄って川さん。「障害意欲があればと伝えたい」

長崎新聞「金婚夫婦表彰」

3会場表彰式

【応募方法】長崎新聞社と佐世保支社、各長崎新聞販売センターをはじめ、県内各市町村庁舎の担当窓口で配布のチラシに郵便番号、住所、電話番号、夫婦の氏名(ふりがな)、結婚年月日などを記して郵送してください。長崎新聞ホームページでは申し込みやチラシのダウンロードができます。

【応募先】〒850-2186 01 (住所不要)、長崎新聞社事業部「金婚夫婦表彰」係

【問い合わせ】長崎新聞社事業部 (電095・844・5261、平日午前10時～午後6時)

主催 長崎新聞社
後援 長崎県、長崎県市長会、長崎県町村会、長崎県老人クラブ連合会
協賛 和泉屋、シニアハウスひこばえ

7月1日受け付け開始

※いずれも午後1時半開場、2時開始

【対象】1966(昭和41)年1月1日から12月31日までに結婚の県内在住の夫婦

【内容】容姿表彰状などを贈呈。敬老の日(9月19日)の長崎新聞で、自治体別に夫婦の名前を紹介【表彰式】▽県南会場(9月28日)水、長崎新聞文化ホール・アストピア(長崎市茂里町)▽県北会場(10月5日)水、アルカスSASEBOイイベントホール(佐世保市三浦町)▽県東会場(10月8日)土、諫早文化会館大ホール(諫早市宇都町)



「作品を見て、前ってほしい」と話 大村市、まちが